

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 22 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	乳幼児健診における問診項目の見直し
-----	-------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	乳幼児健診等における発達障害の早期発見の精度を上げ、標準化するため、受診票の問診項目の見直しを行います。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	母子保健

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	健診項目の研究	健診項目の検討	健診項目の改正	健診の実施	
	これまでの進捗状況・今後の予定	健診項目の研究	健診項目の検討	健診項目の改正	健診の実施	健診の実施	
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	問診項目の見直しの推進(検討会の設置)				計画		年度
	乳幼児健診の項目を見直すことで、発達障害を早期に発見し、支援につなげます。				実績		内容
					達成度	%	
					計画		年度
					実績		内容
				達成度	%	%	
コスト					事業費	千円	千円
					うち一般財源	千円	千円

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 小児保健研究会において、発達障害を早期に発見するための乳幼児健診項目について研究しました。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	乳幼児健診の項目を見直すことは、発達障害を早期に発見し、支援につなげることができるため、重要です。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	4	小児保健研究会で調査した結果をもとに検討することで、健診の精度をより高める効果があります。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	発達に気になる乳幼児が増えていることから、早期に発見する施策として重要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	乳幼児健診は、子どもの健康確保のため、市町村が実施するように母子保健法に義務付けられています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ア	発達障害を早期に発見するための乳幼児健診項目について、母子保健調査事業の中で行っている研究結果等を踏まえながら関係機関と検討します。	

【次年度計画】	
目的実現のために23年度に実施すること	発達障害を早期に発見するための乳幼児健診項目について、母子保健調査事業の中で行っている研究結果等を踏まえながら関係機関と検討します。
	前年度に評価した今後の方向性

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 22 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	乳幼児発達相談指導事業(わいわい子育て相談)の拡充
-----	---------------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	心身の発達が気になる乳幼児について、医師・臨床心理士・保育士等がチームで相談に応じ、保護者の育児不安に対応することで、発達障害等を早期に発見し、乳幼児の健全な発達を支援します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	母子保健	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	相談事業の実施 親子遊び教室のモデル実施	相談事業の回数の拡充 親子遊び教室の全区実施	相談事業の回数の拡充 親子遊び教室の全区実施	相談事業の実施 親子遊び教室の全区実施	
	これまでの進捗状況・今後の予定	相談事業の実施 親子遊び教室のモデル実施	相談事業の回数の拡充 親子遊び教室の全区実施	相談事業の回数の拡充 親子遊び教室の全区実施	相談事業の実施 親子遊び教室の全区実施	相談事業の実施 親子遊び教室の全区実施	
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	わいわい子育て相談の実施回数			計画	168 回		年度 平成26年度
	発達に気になる子どもを早期に発見し、支援するために相談体制の充実が必要です。			実績	104 回		内容 204回
	親子遊び教室の開催数			達成度	61.9 %	%	内容 全区実施
	発達相談の中で気になる親子に対して、専門職による継続した支援が必要です。			計画	7 区	7 区	年度 平成26年度
	わいわい子育て相談の参加者数			実績	6 区		内容 全区実施
			達成度	85.7 %	%	内容 全区実施	
【コスト】	事業費	27,711 千円	34,062 千円				
	うち一般財源	24,718 千円	28,802 千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度は、親子を対象にした遊びや相談に応じる教室を6区で実施しており、その結果、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減につながっています。また、発達相談事業の受け入れを拡充するため、関係機関の実態等を把握し検討しました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	発達障害を早期発見し適切な対応を行うことは、乳幼児の健全な発達を促すことから、事業として有効性は高いです。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	医療関係者等の専門職が実施していることから、これ以上のコスト削減は困難です。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	発達障害の発生率は約6%といわれており、それから起こる様々な問題が顕在化していることから、早期に支援するための施策として重要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	発達障害に関する理解を深めるために、市としての関与が必要です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	関係機関と協議し、発達に気になる乳幼児を早期に支援する体制を強化するために、事業の拡充を検討します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 22 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	親子通園クラスの設置
-----	------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	直営保育所へ新たに「親子通園クラス」を設置し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健・医療・福祉・教育の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 母子保健

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	親子通園クラスの計画的な設置					
これまでの進捗状況・今後の予定		1施設 (八幡西区黒崎保育所)	小倉北区東篠崎保育所で実施予定	親子通園クラスの計画的な設置		実施箇所数 7箇所		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	親子通園クラスの設置		計画		1 施設	2 施設	年度	平成26年度
	親子通園クラスを設置し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を受け入れ、遊びや相談等を通して、保育所や幼稚園等への移行支援を行います。		実績		1 施設		内容	7箇所
			達成度		100 %	%	年度	
			計画				内容	
			実績				内容	
		達成度		%	%	年度		
コスト			事業費		1,290 千円	3,158 千円		
			うち一般財源		1,030 千円	1,238 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 八幡西区黒崎保育所において親子通園クラスを設置し、遊びの提供や保護者との懇談会を行いました。発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した関わりの中で、子育ての楽しさや子どもの成長の喜びを伝えるなどの支援を行いました。12組(延べ65組)の親子が利用しました。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	現在通園中の世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また次年度の進路が決定している世帯も67%を超え、移行支援としての成果も出ています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	利用料として、一世帯あたり月に4,000円を徴収しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	現在の社会状況において、支援の必要な子どもと保護者への対応を考えた子育て支援としてたいへん重要であると考えられます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	直営保育所の施設と人材を活かした子育て支援であり、全国的にも例のない事業です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	市全域へのサービス実施のためにも、平成23年7月東部地区で事業を開始していきます。発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、保育所での親子遊びや行事参加などの体験、相談を通じて、保育所や幼稚園等への移行支援を行います。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	東部地区の東篠崎保育所で、親子通園クラス事業を開始します。	前年度に評価した今後の方向性